

桜蔭俳話会 三月句会 (第三六三回)

平成三十年三月二十五日 (日)

(欠席投句

古野明美、藤本友子、恩田才美、

京林眞壽)

【推薦句】

型通り生きて潰へる春の雪 眞壽
 下萌や義足走者は風を切り 才美
 盲導犬訓練所跡花の雨 明美
 残雪やこの世の澱を吸ひ尽くす 友子
 相続のおほりし家の春障子 かほる
 マニキュアの桜貝色新社員 幸
 知らぬ子の挨拶美しき初桜 明美
 ころころと笑ふ少女や下萌える 幸

【添削句】

度の合はぬメガネずり落つ春炬燵 友子
 【理由】一句の中心は一つ。「度の合はぬ」か
 「ずり落つ」のどちらかにする。

【添削案】

度の合はぬ母の眼鏡や春炬燵

三度病み過ごす大寒実万両 幸

【理由】原則として一句に季語は一つ。

【添削案】

乗り越えし大患みたび寒明くる

海苔一帖おまけ二帖の浜の小屋 ヤエ子

【理由】不用意に「の」は使わない。

【添削案】

海苔一帖おまけに二帖浜の小屋

気まぐれの日記とぢたる春日永 邦子
 戸籍課の卓にひとつの紙雛 才
 老梅の満開の夜の葬儀かな 邦子
 わだかまり解けぬままなり春の宵 幸
 仕事師の肋骨のひび春の宵 直子
 塾の子の見まもり隊や春夕日 かほる
 比べ見る卒業アルバム古希の宴 友子
 たんぼぼや浄化またるる岸のビラ ヤエ子
 福耳の庵主の一人雛祭 ヤエ子
 汁椀にあふれし香り露の臺 邦子
 杖ついで雪道歩く三本足 直子
 鴉鳴く桜囲みて体操会 ヤエ子
 冴返る少年の指す駒の音 友子